

令和7年3月31日

アルプスだより

同窓会アルプス会会報

信州大学医学部保健学科看護学専攻
信州大学医療技術短期大学部看護学科

第30号



満開の桜と松本城

会長挨拶	1
看護学専攻主任挨拶	1
【特別記事1】同窓会発足からの思い出	2
【特別記事2】「アルプスだより」作成の思い出	3
2024年度 活動報告	4
2025年度 理事会、総会、講演会のお知らせ	5
在校生だより	5
アルプス会会則	6
役員名簿	7
事務局だより	7

 **信州大学**
SHINSHU UNIVERSITY

アルプス会発足30周年
30 **特別号**
Years ANNIVERSARY
CELEBRATION

会長挨拶



16回生(医短) 関 浩美

(信州大学医学部附属病院
南6階(レディース)病棟)

アルプス会会員の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のことと存じます。日頃から同窓会活動につきまして、会員の皆さまからは温かい

ご支援やご理解を賜り、心より御礼申し上げます。

令和7年度は、アルプス会発足30周年を迎える記念の年となります。これもひとえに会員の皆さまのお力添えによるものであり心から感謝いたします。今年も7月に総会と講演会を開催予定です。大がかりなことではできませんが、会員である多くの卒業生が病院や施設・地域などで活躍されており、その中の方々をご紹介していきたいと考えております。会員の皆さま、久しぶりに母校に足を運んでみませんか？ ぜひご参加をお待ち申し上げております。

医療に携わっている私たちの環境は、年々大きく変わってきています。今年は「2025年問題」と言われていた年で、超高齢化社会となり、この状況がさらに深刻となる「2040年問題」という言葉も出てきています。高齢者医療や介護のニーズが高まる中、現場はさらに厳しい状況になっていくのでしょうか。そんな中医療の現場では、人材確保や業務の効率化を図るために様々な取り組みがされています。私の勤務している信大病院では、夜勤者確保のために夜勤専従や夜間保育の体制を整えたり、効率的・効果的に業務が行えるように勤務時間をいくつも新設し、多様な働き方に柔軟に対応できるようになってきています。また、医師の働き方改革により業務のタスクシフト/シェアを進めており、これまで看護師が実施していなかった血液培養採取や、抗がん剤

の静脈路確保などを行うようになりました。看護師は看護補助者と協働し、業務委譲を行っています。専門領域のスペシャリストである専門看護師や認定看護師、特定行為研修修了者等、各分野で活躍し、看護の専門性を発揮しています。現場では安全に実施できるように体制を整え、知識・技術の研鑽に努めています。さらに最近では、業務の効率化だけでなく、統一したケアや説明ができるよう、オリエンテーションや退院指導、検査説明などの動画を作成し、患者さんに提供し始めています。動画をQRコードで読み込めるように退院指導用紙に取り入れ、自宅でも活用していただけるように工夫しています。それぞれの施設が様々な取り組みを行い対応していると思いますが、私たち一人ひとりがいきいきと働き続けることができる環境であることを願います。

これから進路を決めていく学生の皆さんは、実習を通して現場を見ることが多いと思います。施設によっては、看護師の業務をシャドウイングできるインターンシップ(1日職場体験)制度があり、看護実践の様子を見ることができます。信大病院でもインターンシップを開催しており、希望した部署でペアラウンドやカンファレンスの実際や、チーム医療の現状、病棟・スタッフの雰囲気を感じることができ、毎回好評だと聞きます。現場の看護師がどのように働いているか、実習とは違った体験ができるので、興味がある学生さんは参加してみるのもいいのではないのでしょうか。

今後さらに少子高齢化が進み、社会が変化する中、私たちの生活や医療の現場がどのように変わっていくのか注視が必要です。最後になりましたが、会員の皆さまのますますのご健勝をお祈りいたします。そして、アルプス会活動への変わらぬご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

看護学専攻主任挨拶



看護学専攻主任

下里 誠二

(広域看護学領域 教授)

平素よりアルプス会には多大なご支援を賜り、感謝申し上げます。昨年度まで専攻主任をつとめられていた平林優子教授の後を継ぎ、本

年度看護学専攻主任を務めております、広域看護学領域の下里誠二と申します。私自身短大11回生です。卒業後東京で勤めておりましたが、平成19年に母校に戻ってまいりました。戻ってきたときには医療短大時代から校舎の建物は学生の時のままでした。夏になるとエアコンのない研究室の暑さは悲惨なものでした。現在では耐震改修に合わせて内部が新しくなり研究室も、そしてアルプス会員にはおなじみの311教室もすっかり快適になりました。学生時代に怠け呆けていたのはきっとあの暑さのせいだったのでしょうか。

さて看護学専攻では2024年11月に新たに広域看護学に小村晃子助教が着任しました。そして2025年3月には成人看護学の池上俊彦教授、広域看護学の高橋宏子准教授が定年を迎えられました。このほか成人看護学の牟田理恵子准教授、加藤茜助教が退職されました。お世話になった先生方が去られるのは大変寂しいことではありますが、ますますのご活躍をお祈りする次第です。

こうした中、3月21日卒業式が行われ、めでたく保健学科19回生が卒業の日を迎えました。年度が替わりまた4月には新たに新入生を迎えました。6月になると毎年ご支援いただいている消毒ボトル入りのポシットをぶら下げて保健学科から附属病院に実習に向かう学生さんの姿を見ることができます。入学時に戴いた多機能ペンを持っている学生さんも多く、アルプス会の学生さんへの支援が本当にありがたいものだと感じます。実習先でお世話いただいているアルプス会の皆様におかれましては、これまでどおりのあたたかい

ご指導をよろしくお願い申し上げます。

2024年は広報活動にも力を入れた年でした。保健学科看護学専攻ではInstagramを立ち上げ、それに際して看護学専攻のマークを制作いたしました。Instagramのアカウントは shinshu.ns、右がマークとQRです。

このマークは、「これから歩んでいく「道」、そして信州大学の「S」が交わる表現にすることで、信州大学の一員として、仲間や教員、街や地域との繋がりを大切に、無限の可能性(インフィニティマーク)を追求していったほしいという願い」を表現したものです。Instagramは学生さんが中心に投稿しています。ぜひフォローしていいね、をお願いいたします。学生さんも励みになると思います。

2025年の大きな変化は入学生のカリキュラムです。これま



で学部の中に保健師、助産師の選抜コースを設けていましたが、2025年からはこのコースが無くなり、看護師の資格取得のみとなりました。今後保健師助産師教育は大学院へと移行していく予定をしております。国立大学の看護学教育の使命として大学院教育の充実は欠かせないものとなってきました。今後もより良い教育ができるよう努力してまいります。

アルプス会の皆様におかれましては、ますますのご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

特別記事1

同窓会発足からの思い出



5回生(医短) 柳澤 節子

アルプス会に関わったために、今回の依頼をいただきました。だいぶ記憶が薄れており、同窓会設立の経緯をとの依頼ですが、思い出せる範囲でお伝えします。

1. 設立までの経緯

教員として着任し、何年か経った頃、教員から?、誰からなのか、どこからなのか、同窓会を作ったほうが良いのではないかという話が出ました。当時の医療短大の卒業生で教員をしていた者3名、3回生小松先生、7回生山崎先生、5回生の柳澤が中心となりました。当時の医療短大の衛生技術学科には臨嶺会があり、短大の前進の臨床検査学校から短大に同窓会が継続されていました。信州大学医学部附属病院助産婦学校から設立されている桐の木会も短大の助産専攻の同窓会として継続していました。また、後発に開校した作業療法学科と理学療法学科には合同の同窓会の州嶺会が設立されていました。医療短大の前進の医学部附属看護学校の同窓会は設立されており、継続されていました。残念なことに短大が開校した際に看護学専攻に継続されてはいませんでした。看護学校の卒業生で教員として着任していた室田先生、武井先生は看護学校同窓会の会員でいらっしゃいました。そこで看護学専攻の同窓会設立にあたり、看護学校同窓会と一緒にやっていただくことはできるかをご相談しました。看護学校同窓会の活動も少なくなり、今後の継続を検討中のようでした。結果として一緒に同窓会を行うことはできないとの回答をいただき、短大看護学専攻としての同窓会を設立することになりました。

2. 設立に向けて

1) 名簿づくり

同窓会設立を目指していましたが、会員である卒業生の

名簿はありませんでした。まず名簿作成からでした。手元には何もなく、学務に相談して趣旨を理解していただき、卒業生名簿を見せていただき、同窓会名簿作成を行いました。当時はワープロへの入力、3.5インチのフロッピーディスクへの保存でした。分担して手作業で入力を行いました(名簿作成時検討されたのは、入学の回生と卒業の回生が違う場合の回生ですが、卒業時の回生に合わせました)。そして卒業名簿で確認できる住所は卒業時の住所と実家(本籍)の住所でした。多くが女性であり、現住所も変更が多くあります。実家の住所を基本として、初めの名簿を作成した後、同窓会理事を通して名簿の確認・修正を行いました。

2) 理事会の設立

同窓会として活動するために各回生から理事を選ぶことにしました。1名では大変だろうと各回生2名の理事とし、初回の理事は信大病院に所属している看護職を中心とし、他に名簿を参考として松本周辺地域にいる方に依頼しました。

はじめの頃の理事会は信大病院の畳の会議室?で行いました。同窓会設立の趣旨の確認、活動のための資金としての会費の徴収について、総会についてなどを話し合いました。短大1回生～3回生の方にお話し、会長はじめ役員になっていただきました。

「アルプス会」の同窓会名については、設立時の理事の中でいくつかの名称案を出していただき、理事会の多数決で決定しました。

3. 同窓会会費について

活動のためには会費が必要です。まったく活動資金がありませんでした。卒業後ずいぶん経ってから同窓会費として支払っていただくために、負担が少ない額として、他の同窓会の会費も参考に5000円の終身会費として徴収することにしました。振込をしていただいたり、現金で送ってくださる方もいました。その徴収した会費をはじめの活動源としました。会費の徴収は理事の方にもかなりご協力いただいたように思います。各回生個人の会費納入の名簿管理記録は結

構大変なことでした。この時の会費がこれまでのアルプス会の潤沢な活動資金になっていたと思います。

同窓会の活動の意義は母校への貢献ですが、そのおかげで、これまで高額なものではフィジカルアセスメントモデル「フィジコ」の寄贈を行うことができました。

【4. アルプス会会報 発行と郵送作業】

アルプス会会報については、今では印刷会社に依頼していますが、長年事務局と編集委員でレイアウトを考え、大学内で作成し、封筒詰めする作業を行いました。当時の会員1000人?に発送する作業です。住所ラベルづくり、会報印刷を会員である教員が事務局として行い、会報を折って封筒に入れての作業は理事会で理事・事務局全員で行いました。すべて手作業で、理事会後、夜になるまで作業を行いました。これが結構大変でした。おしゃべりしながら楽しんではありますがさすがに長時間となると皆疲れてきました。そしてできたものを郵便局に持っていくまでが作業です。それなのになんかの数が宛先不明で戻ってきました。

【5. 最新名簿への更新に向けて】

会報を送っても宛先不明で戻ってきた会員の名簿は、各回生の理事を通して年に1～2回修正をしてもらいました。回生によってかなり連絡が取れている回生と、なかなか連絡が取れない回生があり、名簿の修正は理事となった会員の努力の成果でした。名簿の作成を通して各回生の連絡網ができた同級会を行う回生がありました。

現在保健学科同窓会に登録されているアルプス会の当初

の名簿の充実は、これまでの医療短大の各回生理事のおかげです。

【6. 同窓生のつながりと同級生のつながり】

毎年同窓会を開催いたしました。

総会+講演会の企画が多くありましたが、理事が聴きたい講師や内容など、理事会で検討しました。お世話になった恩師の先生を講師としたり、県内出身の著名人を講師としたり、地元つながりであったりなど、人脈を生かしての多くの講師の先生方をお願いしてきました。講師交渉も理事の方をお願いしてきました。お忙しい中講師との連絡をとっていただき、講師の先生方は快くおいでくださいました。

そんな同窓会ですが、出席する人は限られてきます。同級会でつながっていただくことと総会の出席を多くするために、同窓会当日に同級会を開催し、10名以上の参加がある場合に2万円の助成をすることとしました。これを活用して毎年同級会を開催している回生もあります。

【7. 事務局について】

これまで卒業生が教員として在籍しており、その人たちが事務局として雑務?を行ってきました。そのような卒業生が教員としている限りは、その方々に負担をかけつつアルプス会同窓会が存続できると思います。その方々が少なくなったときは、事務局のあり方を検討する必要があるかもしれません。そして残念なことは卒業生ではない着任されている教員の先生方と強く連携をしてこなかったことです。アルプス会同窓会を認識していただき、ご支援いただくことを期待します。

特別記事2

「アルプスだより」作成の思い出



7回生(医短) 伊藤 喜世子

私は、「アルプスだより」がカラー化された平成23年の16号から令和2年の25号までの作成に関わりました。

まずは、「アルプスだより」がカラー化されて印刷から梱包・発送まで業者に依頼することが決まったときの喜びは格別でした。というのも、それまでの「アルプスだより」は、学校の印刷室で先生方が色黒印刷していたのです。そして、理事会で各回生の理事が「アルプスだより」を6つ折りにし、宛名シールを貼った封筒に入れて封をし、最後に先生方が目一杯封筒が入った段ボール箱を郵便局に届けて発送していました。この作業には、毎回3から4時間はかかっていたように思います。そんな大変な作業がなくなるのは、うれしいことでした。

さらにカラー化です。きれいな写真を載せられるのは楽しかったです。表紙の写真は、16.17号は印刷会社にお任せしましたが、以後は同窓生や時としてその家族が撮影した写真を使用するようになりました。特に18号の「赤レンガ倉庫の

四季」、19号「医学部旭研究棟9階より北アルプスを望む」を撮影してくださった医短5回生の早川さん、20号「冬の松本城」の私の夫、そして、22号「薄川の桜並木と常念岳」、23号「松本の四季」、24号「松本氷彫フェスティバル」の3回にわたり、17回生尾上さんのご主人には、見事な画像を提供していただきました。本当にありがとうございました。また、一日がかりで25号「旧開智学校」の写真を撮影してくれた医短20回生川合さんと篠崎さんにも、改めて感謝いたします。

また、「想い出の写真」には、多くの同窓生の皆さんから写真を提供していただきました。おかげさまで、学生時代のユニフォームやサークル活動、授業や教室、教科書、卒業式、病院の今昔を掲載することができました。これも多くの同窓生の皆様に感謝いたします。

記事のアイデアの多くは、柳澤節子先生のお力によるところが多かったです。「活躍する同窓生」では、節子先生が「〇〇回生の〇〇さんは今、〇〇をしているから、原稿を頼んでみましょう」と提案してくださり、何回となく助けていただきました。また、「同級会報告」のアイデアも節子先生からいただいたと記憶しています。また、先生方への原稿依頼とその受け取りもたくさんしていただきました。さらに会報作

成の基本的なマナーもご指導いただきました。節子先生には足を向けては寝られません。

「講演会報告」では、講師の先生方へ原稿のチェックをお願いするのが毎回緊張しました。一番緊張したのは、“アツい授業”の上田情報ビジネス専門学校の比田井和孝先生でした。どんなアツいご指導をいただくことになるのかと緊張していましたが、無事に掲載許可をいただくことができました。

そして、「アルプスだより」の作成において、最後に感謝をお伝えしたいのは、成進社印刷さんです。社長さんをはじめスタッフの皆様のお力なくして、「アルプスだより」は完成しませんでした。始めに社長さんからは、「A3サイズの白紙を2つ折りにして4枚重ね、16ページの『アルプスだより』とみなして、どこに何を載せるのかを鉛筆書きしてください」

とのお話がありました。そんな社長さんのお言葉に甘え、私たち素人の会報編集委員は、アバウトなページのレイアウトしか毎回書きませんでした。そんなレイアウトから美しく読みやすい会報を作り出してくださったのは、ひとえに成進社印刷さんのおかげです。また、原稿の締め切りに毎回のよう遅れていましたが、辛抱強く対応してくださったことも含めて、改めて心より深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

時代の変化に伴い、個人情報の保護など配慮することが多くなり、アルプスだよりのような会報の作成も大変になってきています。それでも、卒業生が時には懐かしく学生時代を振り返られるような媒体であり続けてほしいと、今回の原稿を書きながら思いました。

2024年度 活動報告

2024年 4月5日 入学生への祝電、入学記念品(多機能ボールペン) 寄贈
2024年 4月27日 1年生交流会での支援
2024年 5月22日 保健学科同窓会幹事会
2024年 5月30日 アルプス会役員会
2024年 7月6日 理事会(10:30～11:30)・総会(11:30～12:30)・講演会(14:00～15:30)の開催

2024年 6月19日 2年生、3年生にアルコールボトル・ボシエットの支援
2024年10月16日 アルプス会役員会
2025年 1月16日 同窓会報編集委員会の開催
2025年 1月27日 アルプス会役員会の開催
2025年 3月7日 池上俊彦教授最終講義での花束贈呈
2025年 3月21日 卒業生への祝電、卒業記念品(はさみ) 寄贈
2025年 3月25日 保健学科同窓会幹事会

2024年度講演会

2024年度講演会は、帝京大学ちば総合医療センター第三内科学講座教授 伊藤孝史先生をお迎えし、「ストレスと笑い」についてご講演いただきました。伊藤先生は診療の傍ら笑い療法士としてもご活躍をされており、ストレス社会の中で明るく元気になれるテーマで楽しく笑えてストレス発散できるような講演会を企画したいという同窓会役員の思いを汲んでいただき、今回の講演を快諾していただきました。

現代はストレス社会であり、ストレスが私たちに及ぼす影響や笑いとの関係について説明をしていただきました。その中で、笑いの頻度と自覚的ストレス・うつ症状には強い負の相関があることや笑いの身体に及ぼす影響(血糖値やナチュラルキラー細胞など)について興味深い数々のデータを示していただきました。そして笑いは自己治癒力を

高め、「無料!!副作用なし!?!」で誰にもすぐにできることを学び、日々の生活に積極的に取り入れたいと思いました。笑いを取り入れる方法の1つとして「笑いヨガ」の紹介がありました。最後に伊藤先生の掛け声に合わせて実際に「笑いヨガ」行い、参加者から「楽しかった」「肩こりが良くなった」と笑いの効用を実感した言葉や「職場でもできたらいいな」などという前向きな言葉が聞かれたりしました。また参加者全員が笑顔になり、講演会の終了となりました。

講演会のなかで伊藤先生より「1日5回笑って、1日5回感動する」という笑いの処方箋をいただきました。会員の皆様におかれましては様々な役割を持ち、日々ストレスの中で生活されていることと思います。ぜひ職場や家庭で「1日5回笑って、1日5回感動する」を実行してみたいかがでしょうか。(小澤悦子)

池上俊彦先生最終講義

今年度をもちまして、保健学科 看護学専攻 池上俊彦教授は、定年を迎えられご退職されることとなりました。池上俊彦先生は、幕内雅敏教授、川崎誠治助教授と国内3例目の生体肝移植に携わり、41年間にわたって信州大学医学部附属病院の肝臓移植・連携・教育・研究にご尽力されました。いろいろな場でユーモアあふれる知性により多くのスタッフを牽引されました。長い間お世話になりました。誠にありがとうございました。感謝の気持ちを込めて、アルプス会から花束を贈りました。(大久保敏子)



2025年度理事会、総会、講演会のお知らせ

2025年7月5日(土)に、理事会(11:00～11:45)、総会(11:45～12:30)、講演会(13:30～15:00)の開催を予定しています。

講演会は、『卒業生の今』をテーマに、右の3名の同窓生をお招きし、お話を伺う予定です。詳細はまたご案内します。

2025年度講演会 演者

- ・宮武千奈美さん(医短6回生):長野県看護協会
- ・伊藤良多さん(保7期生):大町保健所
- ・藤野あかりさん(保12期生):テキサス子ども病院(認定チャイルドライフスペシャリスト)

在校生だより

大学生活1年を経て

令和6年度 1年生 篠崎 郁希

信州大学に入学し、早くも1年が経ちました。入学当初は、慣れない一人暮らしや、専門的な勉強に戸惑うことも多く、大変な日々でした。しかし、同じ夢を目指す仲間と切磋琢磨していく中で、少しずつ知識や技能を身に付け、看護学生として成長していると感じます。これらも仲間と支え合いながら、多くの壁を乗り越えていきたいと思います。



2年次での学び

令和6年度 2年生 玉村 伊吹

2年次の実習では、初めて受け持ち患者さんを担当しました。期待と不安が入り混じる中で、多くの学びを得ることができました。患者さんとの関わりを通じて、教科書だけでは学べない「その人に合った看護」の大切さを実感し、実践することの難しさを痛感しました。同時に、より深く学び、成長したいという思いも強くなりました。アルプス会の皆さまのご支援のおかげで、安心して実習に取り組み、多くの学びを得ることができました。心より感謝申し上げます。今後も学びを深め、より良い看護を提供できるよう努力を続けてまいります。



各論実習を通した学び

令和6年度 3年生 増田 千寿子

3年生の後期から各論実習が始まり、様々な領域の実習が終わる度に新たな発見や看護観に触れることができました。アルコールポシットやボトルの配付など、アルプス会のご支援により、充実した実習期間を過ごすことができました。実習での学びを今後の看護へ活かしていきたいです。

より良い臨床支援を目指して

令和6年度 3年生 糟谷 有沙

私たち3年生は、後期から各論実習が始まり、これまでの実習以上に専門的に焦点を当てた実習を経験しました。看護師として働く場や支援の仕方、患者さんのニーズの多様性に気づくことができました。これらの学びも、実習を受け入れてくださった病院や施設、看護師、多くの医療従事者の方々、先生方、同級生の支援があったからです。

これからもより学びを深め、実際に臨床で働いていく中でより良い支援していけるように、実習やゼミでの活動も積極的に頑張っていきます。

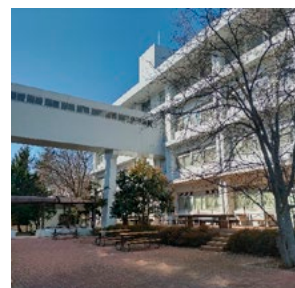
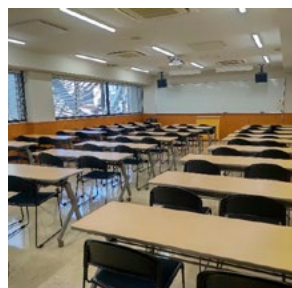


4年間を振り返って

令和6年度 卒業生 小池 彩夏

信州大学での4年間は、仲間とともに実習や座学に励み、多くの思い出と豊かな学びを得られた時間でした。そして、自分自身の在り方を見つめ直す日々でもありました。これまでの充実した日々は、たくさんの方々に支えていただいたからこそ実現できたことだと強く感じています。

来年度からは就職となりますが、新たな環境においても大学生活での経験を糧に前向きに努力を重ねていきたいと思っています。



同窓会会則

信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会 アルプス会 会則

第1章 総則

- 第1条 本会は、信州大学医療技術短期大学部・信州大学医学部保健学科看護学専攻同窓会「アルプス会」（以下「本会」という）と称する。
- 第2条 本会は信州大学医学部保健学科同窓会の看護学専攻分科会として位置づけられる。
- 第3条 本会は、事務局を松本市旭3丁目1番1号 信州大学医学部保健学科看護学専攻内に置く。
- 第4条 本会は、会員相互の親睦を図るとともに、母校との連携を保ち、その発展に寄与することを目的とする。
- 第5条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
- 一 会員の親睦および研修に必要な事項
 - 二 母校の発展に関する事項
 - 三 会報の発行
 - 四 その他必要と認められる事項

第2章 会員

- 第6条 本会の会員は次のとおりとする。
- 一 正会員
 - イ 信州大学医療技術短期大学部看護学科の卒業生
 - ロ 信州大学医学部保健学科看護学専攻（以下「本専攻」という）の在学生および卒業生
 - ハ 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）（以下「本大学院」という）の在学生および修了生
 - 二 特別会員
 - イ 本専攻教員
 - ロ 本専攻元教員
 - ハ 信州大学医療技術短期大学部看護学科元教員
 - ニ 前項以外の者で理事会の承認を得た者
- 第7条 会員が死亡または会員たる資格を喪失したときは、退会したものとみなす。
- 第8条 会員が、本会の名誉を傷つけ、または本会の趣旨に反する行為をしたときは、総会において出席会員の4分の3以上の議決により、これを除名することができる。
- 第9条 正会員のうち信州大学医療技術短期大学部卒業生は会費として5000円、信州大学医学部保健学科看護学専攻の在学生および卒業生、信州大学大学院医学系研究科博士前期課程（看護学分野）の在学生および修了生、後期課程（看護領域）の在学生および修了生は会費として2万円を納入するものとする。すでに会費を納入している本会の会員が3年次編入および大学院に進学した場合は、2万円の納入は免除される。ただし、退会または除名された会員が既に納入した会費その他の拠出金は返還しないものとする。

第3章 役員等

- 第10条 本会に次の役員を置く。
- 一 会長 1名
 - 二 副会長 1名
 - 三 幹事 若干名
 - 四 会計 1名
 - 五 書記 1名
 - 六 理事
 - イ 医療技術短期大学部および医学部保健学科看護学専攻卒業生；各回生2名
 - ロ 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）および後期課程（看護領域）修了生；各回生1名
 - ハ 保健学科看護学専攻在学生；8名（各学年2名）
 - ニ 医学系研究科博士前期課程（看護学分野）在学生；1名
 - ホ 医学系研究科博士後期課程（看護領域）在学生；1名
 - 七 会計監査 1名
 - 八 会報編集委員 4名

第11条 役員は、次の職務を行う。

- 一 会長は、本会を代表し、会務を総括する。
- 二 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 三 幹事は事務局において本会の実務にあたる。
- 四 会計は本会の会計を司り、総会において会計報告を行う。
- 五 書記は庶務記録を司る。
- 六 理事は、会員の代表として本会の運営に当たる。
- 七 会計監査は会計監査を行う。
- 八 会報編集委員は会報の発行をおこなう。

第12条 役員は、次により選出又は委嘱する。

- 一 会長は、総会において正会員の中から選出する。
- 二 副会長は、会長が正会員の中から推薦し委嘱する。
- 三 幹事は、会長が委嘱する。
- 四 理事は、正会員の中から選出し委嘱する。
- 五 会計は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
- 六 会計監査は、総会において正会員の中から選出し委嘱する。
- 七 書記は正会員の中から選出し委嘱する。
- 八 会報編集委員は正会員の中から選出し委嘱する。

第13条 役員の任期は、2年とする。ただし、在学生理事の任期は1年とする。再任は妨げない。

- 2 補欠による役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 役員は、任期が満了しても後任者が就任するまではその職務を行うものとする。

第4章 顧問

- 第14条 本会に顧問を置くことができる。顧問は、総会の議を経て会長が委嘱する。
- 2 顧問は、重要事項について会長の相談に応ずる。

第5章 会議

- 第15条 総会は、原則として毎年1回開催し次の事項を審議決定する。
- 一 事業および決算報告
 - 二 事業計画および予算
 - 三 会則の制定および改廃
 - 四 役員の選出
 - 五 顧問の推挙
 - 六 その他の必要事項
- 2 会長は、総会を召集し、理事会の議を経て前項に定める事項を提案する。
- 第16条 会長は必要と認めたとき、臨時総会を開催することができる。
- 第17条 総会の議長は、出席会員の中から選出する。
- 第18条 総会は、日時、場所、付議すべき事項等を示して召集する。
- 第19条 総会に出席できない会員は、あらかじめ文書をもって意見を表示することができる。
- 第20条 総会の議事は出席会員の過半数で決し、可否同数のときは議長がこれを決する。
- 第21条 総会は、議事録を作成しこれを保存する。
- 第22条 理事会は、会長、副会長、幹事、会計、書記、理事、会計監査によって組織する。
- 第23条 理事会は、会長が必要と認めたとき、又は理事の5分の2以上の要求があったときに開催する。
- 第24条 理事会は、会長が召集し、議長となる。
- 第25条 理事会の議事は、出席者の過半数で決する。
- 第26条 理事会は必要に応じて委員会を置くことができる。
- 第27条 役員会は、会長、副会長、幹事、会計、書記によって組織する。
- 第28条 会長は役員会を招集し、必要事項について話し合うことができる。

第29条 会長は会報編集委員を招集し、編集会議を開催する。

第6章 会 計

第30条 本会の経理は、会費および寄付金その他の収入をもって充てる。

第31条 本会の会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

附 則

この会則は、平成7年5月13日から施行する。

この会則は、平成18年7月29日から施行する。

この会則は、平成19年7月14日から施行する。

この会則は、平成21年7月11日から施行する。

この会則は、平成22年7月10日から施行する。

この会則は、令和元年7月6日から施行する。

アルプス会会計細則

1 同窓会費

(1) 信州大学医療技術短期大学部卒業生は終身会費として5,000円

(2) 信州大学医学部保健学科看護学専攻在校生および卒業生は終身会費として2万円。保健学科在学中あるいは卒業後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費6万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。

(3) 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻博士前期課程（看護学分野）の在学生および修了生、後期課程（看護領域）の在学生および修了生は終身会費として2万円。前期課程および後期課程に在学中あるいは修了後に保健学科同窓会に納入した保健学科同窓会費4万円より看護学専攻分科会費として2万円が納入される。すでに会費を納入している本会の会員

は2万円の納入は免除される。

(4) 信州大学医学部保健学科看護学専攻生が助産学を専攻した場合は、同窓会費2万円のうち1万円を桐の木会の会費として納入する。

(5) 特別会員は会費の徴収をしない。

2 代表者名で金融機関に同窓会の口座を設け、会計が通帳・印鑑を管理する。

3 会計は、会計年度終了後に速やかに決算報告書を作成し、監査を受ける。

4 本細則の改正は、同窓会総会で行う。

附 則

この細則は、平成18年7月29日から施行する。

この細則は、平成19年7月14日から施行する。

この細則は、平成21年7月11日から施行する。

アルプス会会計申し合わせ事項

1 理事会、役員会を開催した際には、役員に対して日当2,000円を支給する。

2 事務局の運営費として年5万円を支給する。

3 会則第5条4に基づき、災害義援金等の社会貢献を行う。義援金等の寄付を行う基準は日本看護協会が呼びかけたものとし、役員会の審議を経て寄付を行うものとする。

4 正会員ならびに特別会員に関わる弔事の対応については役員会で検討し、香典あるいは弔電をもって5,000円を超えない範囲で対応する。

5 総会当日に各回生において同級会を開催する場合は、その支援費として、10名以上の参加につき、2万円を支給する。この申請については事前に事務局宛てに連絡する。なお、支給については同窓会当日の総会会場とし、同級会を開催したことを事務局に報告する

この申し合わせは、平成18年7月29日から施行する。

この申し合わせは、平成22年7月10日から施行する。

この申し合わせは、平成24年7月14日から施行する。

この申し合わせは、令和5年7月8日から施行する。

役員名簿

2024-2025年度の役員は、下記の通りでした。

会 長	関 浩美 (16)	幹事・事務局	下里 誠二 (11)、木下 愛未 (保8)
副 会 長	小澤 悦子 (17)	書 記	白濱 零 (保6)
会 計	松本 恵美 (17)	理 事	各回生から2名
会計監査	大久保 敏子 (15)	顧 問*	柳澤 節子 (5)

カッコ内は、卒業回生を示す。(○)は医短、(保○)は保健学科 ※顧問…会則「第4章 顧問」を参照。

＊同窓会事務局だより＊

＊同窓会のHPがリニューアルされました。
(<https://www.mhoken.jp/alpskai>)
綺麗なページになっていますので、上記URLまたは右のQRよりアクセスしてご覧ください。



＊アルプス会は、とうとう30周年を迎えます。本会報も30周年特別号として、これまで同窓会の発足から運営までご尽力された柳澤節子さん、同窓会報の発刊に長くお力添えをくださった伊藤喜世子さんに特別記事を書いていた

できました。これまでのご尽力に心より感謝申し上げます。
また、役員会では記念品の製作を検討しています。これから理事会や総会などで皆さんからご意見をいただけたらと思っています。

＊郵送での住所変更の場合は、下記までお願い申し上げます。
【住所変更連絡先】信州大学医学部保健学科同窓会室
〒390-8621 長野県松本市旭3丁目1番1号
[電話&FAX]0263-37-3510